

# 秋は教研 旺盛に語り合おう!

## すべての支部で開催



発行所  
和歌山県高等学校  
教職員組合  
和歌山市海浜町南ノ丁50  
TEL 073-432-6355  
FAX 073-432-6357  
Eメールアドレス  
w-hokyo@nifty.jp

2023年 9月号  
一面 支部教研  
二面 支部教研(第二支部・第三支部)  
三 支部教研(第一支部・第一支部)  
四 支部教研(第四支部・第五支部)  
五 支部教研(第一支部・第三支部)  
六 支部教研(第一支部・第三支部)  
七 支部教研(第一支部・第三支部)



第四支部教研(西牟婁教育会館)

### 第四支部

#### 内容の濃いレポート 時間超過の討論

8月26日(土)、西牟婁教育会館にて第四支部支部教研が開催されました。午前中の実施で、レポート数は3本でしたが、内容特に今年度は、梅の在庫過

は興味深いものが多く、レポート質疑応答も含めそれぞれ1時間以上、合計3時間以上での開催となりました。

1本目のレポートは、那須先生(神島分会)の「梅を食べようキャンペーン2023」と題して、おなじみ「神島屋」の取り組みを中心にした発表でした。特に今年度は、梅の在庫過

剩による販売不振もあり、紀南地域の農業の中心である梅産業を今後どう展開していくべきかと熱く語られました。

2本目のレポートは、種泊先生(南部分会)の「デュアルシステムはじめました」と題して、今年度から始まったデュアルシステムについて報告していただきました。現在2年生7人が週1回丸

1日、1限から6限まで地元企業の職場実習している様子を聞かせていただきました。また、その実習の様子を知ってもらうため、「デュアル日記」として発行

しているとのことでした。最初は、仕事が重労働で疲れたり、コミュニケーションをとるのに苦労していた生徒が、次第に前向きに取り組めるようになってきたと報告されました。

3本目は、松下先生(熊野分会)が「祖父から学んだこと、伝えたいこと」と題して、ドキュメンタリー映画「古里：失われた島、ターミナル島」を見ながら、松下先生の祖父が太平洋戦争直前にアメリカへ渡られたお話をいただきました。約3千人の日本人街をつくり

豊かに暮らしていた人々が、真珠湾攻撃を機に住む所を奪われ、各地の収容所へ送られ、さらに街自体が消失してしまっただけというお話を伺いました。

どのレポートも参加者の質疑で大いに盛り上がりました。1年に一度くらいはこのような教研の場を通じてお互いの知見や世界観を広げることが必要だと実感することができました。

申本古座分会の戸瀬太貴先生からは「地域教材を活用した授業」と題して、「グローバルコース」での、創造的で生徒の求める学習に寄り添った授業が紹介されました。しかし、行政的人的・財政的支援の絶対的不足や、「グローバルコース」の取り組みを検証すること

もなかった3年で「宇宙探究コース」がトップダウンで発表されることに、深刻な疑問が呈されました。お二人のお話の合間には、参加者から現状についての情報交流や、意見交換をもち、議論を深めることができました。今後東牟婁・新宮地域の厳しい生徒減の中でも、子どもたちの学習権と健全な成長を保障する学校をいかに守り、発展させていくべきかについて考えと取り組んでいきます。



第五支部教研(関西大学)

### 第五支部

#### 地域の声をもとに まなびの場を守る

和 高 教 第五支部教育研究会は9月8日(金)18時30分より、サンライズ勝浦にて6名の参加で行われました。新期分会の中

岸速人先生から「『実習教員って何ですか?』」と題して、令和2年の「き

「画像や動画の貼り付け方」と秘蔵写真上映「塩崎健司先生・笠田分会



第一支部教研(あじさいホール)

### 第一支部

#### 授業実践で 明日への活力

第一支部の教育研究会が9月9日(土)にかつらぎ町のあじさいホールで開催、昨年に引き続き、半日での開催となりました。

本日から石原委員長を迎えました。挨拶はもちろんですが、分科会でのミニ講演「なぜ今、組合が必要なのか(仮)」も賜る出席でした。というのも、レポート報告者2名が拠点所ない事情で欠席となったところを急遽の大車輪・・・本当にありがとうございました。結果、上記と以下の3本のレポートを2つの分科会で討議することとなりました。

科大臣が「自殺防止」の通達、メッセージを出す。私は大臣の言葉に心に届くものを感じない。▼子どもたちの自殺の理由を見ると「学校問題」と意味の分らない言葉でくくられている。悪い大人たちの誤魔化しがある。多くが学業と進路の悩みという。大人は子どもたちの中の「いい子」にスポットを当てて、生徒個人の問題にしようとしている。しかし私たち大人こそ、彼らを過度な競争にさらしめているのではないかと。▼教員として自分の授業に「学び」や「楽しみ」があるか振り返りたい。子ども達に「これおもしろいやろ?」ということをお伝えたい。本来、学問というものは、それぞれがおもしろいと思うこと、興味関心を追求していくものだ。趣味的なものも含めて、人間の営み自体を共有し次代に引き継いでいくことが教育であり、文化ではないか。学校での学習はその手段としての学力を身につけるためのものである。しかし今やその学習は子ども達を過度に競争させ、ふるいにかける手段になってしまっている。そこに子ども達一人一人を大切にすることを学校に背を向けるのは当然のことだ。▼明日子ども達が学校に来ることを楽しみにできるような、子ども達が自分の成長を確信して、明るく前向きになれるような学びの場を創りたい。それはすべての人の平和と安心の、希望ある社会につながるだろう。

何とかせねばと思ふ。夏休み明けに児童、生徒の自殺が起ころ。文科大臣が「自殺防止」の通達、メッセージを出す。私は大臣の言葉に心に届くものを感じない。▼子どもたちの自殺の理由を見ると「学校問題」と意味の分らない言葉でくくられている。悪い大人たちの誤魔化しがある。多くが学業と進路の悩みという。大人は子どもたちの中の「いい子」にスポットを当てて、生徒個人の問題にしようとしている。しかし私たち大人こそ、彼らを過度な競争にさらしめているのではないかと。▼教員として自分の授業に「学び」や「楽しみ」があるか振り返りたい。子ども達に「これおもしろいやろ?」ということをお伝えたい。本来、学問というものは、それぞれがおもしろいと思うこと、興味関心を追求していくものだ。趣味的なものも含めて、人間の営み自体を共有し次代に引き継いでいくことが教育であり、文化ではないか。学校での学習はその手段としての学力を身につけるためのものである。しかし今やその学習は子ども達を過度に競争させ、ふるいにかける手段になってしまっている。そこに子ども達一人一人を大切にすることを学校に背を向けるのは当然のことだ。▼明日子ども達が学校に来ることを楽しみにできるような、子ども達が自分の成長を確信して、明るく前向きになれるような学びの場を創りたい。それはすべての人の平和と安心の、希望ある社会につながるだろう。



